

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶をめざし、高い志と夢を持って、21世紀を担うことのできる有為な人材を育てる。

- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる、リーダーシップを取れる人材を育成する。
- 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
- 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。

2 中期的目標

1 学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶

(1) 大阪を代表する全日制普通科単位制高校として、進学を重視した規律ある学校を維持、発展させる。

ア 新学習指導要領や高大接続改革に対応し、また進路実現に向け常に適切にカリキュラムや指導と評価の研究を行なうことで、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の向上のための取組みを推進する。

※令和4年度において、学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を84%にする。(H29:71%、H30:75%、R1:75%)

イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。

※令和4年度において、国公立大学現役合格者を22%以上にする。(H29:14.6%、H30:13.7%、R1:6.7%)

ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。

※令和4年度において、一日平均学習時間(2年生10月)110分以上を維持する。(H29:94分、H30:95分、R1:107分)

エ 「槻の木NEXT STAGE」(企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など)の取組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努める。

(2) 「規範なくして学力向上なし」を合い言葉に、高い志や倫理観と強い精神力を育て、学業と部活動・学校行事の両立のための支援と指導を行なう。また、安全で安心して学校生活に取り組める環境を維持、発展させる。

ア 学習指導・生徒指導・進路指導などの学校経営において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。

※令和4年度において、遅刻者数府内最少レベルを維持する。

イ すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。

(3) グローバル社会で活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶に向けて、学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木NEXT STAGE」等の取組みにより、社会で通じる礼儀やマナーを身につけさせるとともに、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。

2 先進的で他をリードする学校づくり

(1) 強い組織力による学校力の向上をめざし、授業改善、生徒指導、進路指導に取り組む。

ア 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。

イ 先進校視察・研修参加と伝達研修・教職員研修により、教育力の向上と活性化を図る。

(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立

ア 教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に対応できるように改善に努める。また、教員がより多くの時間で生徒対応できるように業務のスクラップ&ビルドを進める。

3 保護者・地域から信頼される学校づくり

(1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入りたい」「入れてよかった」と、地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。

(2) 広報活動、情報発信の充実に努め、保護者・地域との信頼関係を高める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学力の向上と調和のとれた人格の陶冶】</p> <p>1. 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業見学の活性化、研究授業・研究協議とまとめの共有、授業アンケート結果の共有、研修、府教育課程協議会の説明動画受講等を行い、「参加体験型学習など指導方法の工夫・改善を実施」(教職員)82%(R1:68%)、「グループ学習など学習形態の工夫・改善を実施」(教職員)91%(R1:77%)、「思考力を重視した問題解決的な学習指導を実施」(教職員)69%(昨年65%)、「評価の在り方について話し合う機会がある」(教職員)87%(R1:71%)と上昇した。 ・「授業は全体としてわかりやすい」(生徒)は76%(昨年79%)。「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(生徒)84%(昨年75%)は上昇した。 <p>2. 規範意識、自尊感情の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「槻の木高校は、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」は生徒93%(昨年94%)、保護者96%(昨年96%)。「規律を守った生活を送っている」は生徒94%(昨年93%)、保護者98%(昨年95%)で、微増している。 ・「学校ははじめなど私達(子ども)が困っていることに真剣に対応してくれる」は生徒83%(昨年84%)、保護者83%(昨年85%)、「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」(生徒)は87%(昨年88%)で、概ね例年通りであった。 ・「今年の文化祭はよかった」は生徒80%(昨年83%)。「修学旅行の内容は充実している」は2年生生徒94%(昨年82%)で、感染症対策のため先行等を変更したが満足度は上昇した。 ・今後も安全安心な学校づくりと共に、規範意識、主体性、自尊感情、人間関係調整力等を育む教育を推進していく。 <p>【学校力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョンの明確化、進捗状況の共有、教職員の協働体制の推進、研修の充実等により「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」(教職員)は84%(昨年77%)、「事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている」(教職員)は88%(昨年76%)、「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」(教職員)は91%(昨年91%)、「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」(教職員)は91%(昨年79%)等、教職員の意識は向上した。 ・「充実した学校生活を過ごしている」は生徒88%(昨年88%)、保護者88%(昨年88%)、「入学して良かった」は生徒78%(昨年79%)、保護者91%(昨年90%)で昨年同様であった。 ・「先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている」は生徒88%(昨年91%)、「学校は保護者の願いに応える努力をしている」(保護者)は86%(昨年82%)であった。 ・今後も教職員の協働体制を推進し、教育活動の活性化と学校力の向上を図っていく。 	<p>【第1回7月18日】「令和2年度学校経営計画について」「オンライン授業環境の整備について」「新型コロナウイルス感染症対策について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の準備をすることは、教員の授業改善のチャンスでもある。資料を用意し、15分程度の限られた時間内に、論理的に、段取り良く、わかりやすく行うなど、先生方には工夫して授業を改善して欲しい。 ・授業でのICT機器の活用では、プレゼンテーションソフトの作成等に時間がかかり、教員の過度の負担とならないよう進めて欲しい。 ・今後もICT機器を活用した業務や生徒への指導が円滑にできるよう進めて欲しい。 ・感染症対策については、毎日の健康観察、マスク着用、手洗い、消毒等、継続してほしい。生徒が感染した場合を含め、人権教育も継続して行ってほしい。 <p>【第2回10月24日】「学校経営計画進捗状況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートでネガティブな回答をした生徒の回答理由・背景を読み取り、生徒の意識改革や授業改善を生かしてほしい。 ・長期の臨時休業の影響で、特に1年生が槻の木生として成熟していく機会が少なかったと思われるが、今年も伝統や誇り、部活動での役割意識等を育ててほしい。 ・探究型の課題研究に取り組んでいく等、将来構想を考える時期に来ているのではないかと。 ・オンライン授業では、機器や通信状況に制約を受けると共に、各教科科目の特性に応じた内容の工夫や紙媒体が活用しにくい等の課題がある。教員と生徒の負担が増えることも考えなければならぬ。継続した研究をお願いしたい。 ・感染症対策のための制約はあるが、生徒達のため、様々な機会を作ってほしい。 <p>【第3回3月2日】「令和2年度学校経営計画及び学校評価について」「令和3年度学校経営計画及び学校評価について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナ禍の状況の中、着実に教育活動を積み重ね、槻の木高校らしい校風を維持し、成果に結びつけたことを評価する。 ・学校教育自己診断の結果から、授業の指導方法の工夫・改善、グループ学習等のポイントが高く、教職員の努力への保護者・生徒の高い評価を感じる。 ・「入らせたい」「入ってよかった」槻の木高校であったし、人間的にも、とても成長させていただいた。5年後10年後もそういう学校であり続けてほしい。 ・学校教育自己診断の結果を分析し、課題への対応をお願いしたい。 ・読書活動、論文指導等に取り組み、読解力、表現力の向上をはかってほしい。 ・学校外との交流を活発にし、課題研究等の探究型プログラムにチャレンジすることで、生徒達の未知の状況でも生きぬく力や社会で役立つ高い志を育ててほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上と規範意識、自尊感情の醸成	<p>(1) 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現</p> <p>(2) 高い志の育成と規範意識、自尊感情、人権意識の高揚</p> <p>(3) グローバル人材の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・新学習指導要領を踏まえて、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の向上のため、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を進める。</p> <p>・指導と評価に係る研究を進め、生徒の学力及び学びに向かう力を育てる。</p> <p>・新学習指導要領を研究し、適切なカリキュラム編成・実施を行う。</p> <p>・生徒の学力を、学力生活実態調査等で分析し、生徒面談の充実を図る等して、進路実現を支援する。</p> <p>・職業観、勤労観育成のための取組を行うとともに、校内での進路別説明会を行う等して進路指導の充実を図る。</p> <p>イ・自学する意義の理解、課題、予習、復習等による学習時間の維持とその定着を図る。</p> <p>・学校図書館の更なる活用等を通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。</p> <p>ウ・「槻の木 NEXT STAGE」の取組を継続し、企業、大学、地域と連携した体験・発表型進路学習を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・遅刻指導を充実し、遅刻数の府内最少レベルをめざす。</p> <p>・生徒の安全確保のため、自転車指導等の交通安全週間を設け、指導の充実を図る。</p> <p>・学校美化や教室清掃を習慣とし、学びの場としての学習環境整備に努める。</p> <p>イ・保健課を中心に、相談室委員会、学年、教科担当者等が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。</p> <p>・安全で安心な学校づくりのための教職員研修を実施する。</p> <p>(3)</p> <p>・「槻の木 NEXT STAGE」の一環として国際交流に取り組む等、国際的な視野を育て、使える英語力の向上を図る。</p> <p>・学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木 NEXT STAGE」等の取組により、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断で「カリキュラムに係る満足度」85%以上を維持。(R1:89%)</p> <p>・学校教育自己診断で「授業満足度」を80%以上にする。(R1:79%)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を78%にする。(R1:75%)</p> <p>・学習指導室(進路、教務)、学年、教科が協力して、進路実現を支援する。</p> <p>・国公立大学現役合格16%以上。</p> <p>・面談回数年間総数2160回以上を維持。(R1:約2400回)</p> <p>・学校教育自己診断で「進路について考える機会がある」90%以上を維持。(R1:92%)</p> <p>イ・一日平均学習時間2年(10月)、平日・休日平均105分以上を維持。(R1:107分)</p> <p>ウ・参加生徒の満足度90%以上を維持。(R1:100%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・年間遅刻者数650人以下(R1:1057人)</p> <p>・学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」94%以上。(R1:93%)</p> <p>イ・保健課を中心とした教育相談体制の確立。</p> <p>・教職員研修を、人権意識の向上、教育相談活動の充実について各々実施する。</p> <p>(3)</p> <p>・「槻の木 NEXT STAGE」でオーストラリアへの海外研修旅行を実施。</p> <p>・参加生徒の満足度90%以上。</p> <p>・学校教育自己診断で「学校行事に係る肯定的回答」80%以上を維持。(R1:85%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)で「カリキュラムに係る満足度」は89%。(○)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)で「授業満足度」は76%。(△)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)で「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」は84%。(◎)</p> <p>・カリキュラムマネジメント推進のためのプロジェクトチームを中心に新カリキュラムの編成に取り組んだ。府教育課程協議会の説明動画を全員が受講することで、授業改善を進めると共に、観点別学習状況評価の実施に向けての準備を進めた。(◎)</p> <p>・学習指導室と学年が協力し、学習状況の評価と共に、学力生活実態調査、学力テスト等を実施、分析。授業等の現状を含めて関係教員で協議、個別指導し、進路実現を支援。(◎)</p> <p>・喋喋サポート(国公立大学希望者への面談指導)を一人当たり年間5回実施。国公立大学現役合格者は11%。(△)</p> <p>・学習状況、科目選択等の個別相談と共に、キャリアパスポートを活用し、進路実現に向けた生徒面談を約2400回(1・2年各720回、3年960回)実施。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)「進路について考える機会がある」は91%であった。(○)</p> <p>イ・学習習慣定着のため、週末課題(1・2年英数国)、週テスト(2年英語)、毎日の学習計画書の提出、自習室の管理運営等を実施し、家庭学習時間は2年生10月で107分。(○)</p> <p>・後期土曜講習、学力テスト2回、一日勉強会4回を実施。</p> <p>ウ・「槻の木 NEXT STAGE」今年度の計画は中止。(評価なし)</p> <p>(2)</p> <p>ア・入室許可証を用いた遅刻指導、遅刻防止キャンペーンを実施したが、遅刻者数は953人。(△)</p> <p>・年間2回の通学用自転車の整備チェック、交通安全指導を実施。</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)で「規律を守った生活を送っている」は、94%。(○)</p> <p>・PTA、生徒、教職員が合同で校内での花苗植えを実施。</p> <p>イ・保健課を中心として、教育相談の充実のため、担任会等から生徒情報を共有し必要に応じてスクールカウンセラー(SC)との連携を図ると共に相談室の活用を推進。(◎)</p> <p>・SCによる職員研修「カウンセリングマインドについて」、専門家による職員救急救命AED・エビペン研修を実施。(○)</p> <p>・担任、教科担当者等が情報を共有し、SCや関係機関とも連携した個別の支援を行うために、配慮を要する生徒の支援会議を年間2回実施。</p> <p>(3)</p> <p>・コロナ禍により国際交流の実施はできなかったが、タイの姉妹校生徒とのビデオレター交流、校内英語企画「イングリッシュカフェ」を実施した。参加生徒満足度は100%。(◎)</p> <p>・学校行事等に生徒が自主的・協力的に活動できるよう各学年を中心に指導し、修学旅行では98%が「満足」と回答。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)で「学校行事に係る肯定的回答」は85%。(○)</p>
2 先進的で他をリードする学校づくり	<p>(1) 強い組織力による学校力の向上</p> <p>(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教科会を定期的に開催して教科研修を行い、授業力の向上を図る。</p> <p>・教員相互授業見学、教員研修を行う。</p> <p>・授業アンケート結果を効果的に活用し、授業改善に取り組む。</p> <p>イ・積極的な府教育センター等の研修への参加と伝達研修、教職員研修により、人権意識の向上、教育力の向上と活性化を図る。</p> <p>・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。</p> <p>・カウンセリングマインドのある生徒指導を推進する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・効果的・効率的な協働体制の確立のため、OJTの推進、業務の見える化、業務分担の見直しを図る。</p> <p>・全校一斉休日及びノークラブデー等による働き方改革を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員相互の授業見学、授業アンケート結果を踏まえた教科会での協議を全教科で年間2回実施。</p> <p>イ・伝達研修、教職員研修の実施。</p> <p>・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」75%以上。(R1:72%)</p> <p>・学校教育自己診断「生徒指導に係る肯定的回答」80%以上を維持。(R1:85%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」75%以上を維持する。(R1:79%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・今年度は、前期の休校期間を考慮して全教科での研究授業・研究協議を後期のみとし、まとめの研修を実施。(○)</p> <p>・探究する授業プロジェクトチーム、オンライン授業プロジェクトチームが協力し、タブレット、マグネットスクリーン、タブレットPC固定用スタンド等の消耗品の購入と管理、ICT機器を活用した研究授業を実施。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断(教職員)で、「参加体験型学習など指導方法の工夫・改善」は82%(R1:68%)、「グループ学習など学習形態の工夫・改善」は91%(R1:77%)。(◎)</p> <p>イ・オンライン授業・ICT機器の活用に係る職員研修、学習支援クラウドサービスに係る職員研修・試行を実施。(◎)</p> <p>・人権(支援教育/同和問題)に係る伝達研修を実施。(○)</p> <p>・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」は88%。(◎)</p> <p>・関係教員での生徒指導に係る意見交換に努め、学校教育自己診断(生徒)「生徒指導に係る肯定的回答」は85%。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・今年度、オンライン授業、生徒一人一台端末の導入に向けた業務をプロジェクトチームで行ったが、令和3年度は学校運営室に位置付ける。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」は91%であった。(◎)</p>
3 保護者・地域から信頼される学校づくり	<p>(1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入れた」「入ってよかった」学校づくりの推進</p> <p>(2) 保護者・地域との信頼関係の向上</p>	<p>(1)</p> <p>・授業公開、体育大会、文化祭、個人面談、進路説明会、PTA活動等を通じ、保護者の信頼をさらに得よう努める。</p> <p>・施設設備の改善に努め、学習環境の充実を図る。</p> <p>(2)</p> <p>・学校教育活動の全般について、本校生徒・保護者、中学校、中学生・保護者、地域に発信し、信頼にたる学校づくりを推進する。</p> <p>・ホームページの充実、メールマガジンの発信などにより、学校教育活動への理解と信頼を促す。</p>	<p>(1)</p> <p>・「入って(入れて)よかった」生徒77%以上。(R1:79%)、保護者90%以上。(R1:90%)</p> <p>(2)</p> <p>・ホームページの適宜更新。</p> <p>・メールマガジンのタイムリーな発信。</p>	<p>(1)</p> <p>・学校教育自己診断「入って(入れて)よかった」は、生徒78%(○)、保護者91%(○)であった。</p> <p>・今年度は、授業日数の確保及び感染症対策のため、入学式、体育大会を中止、文化祭は保護者・中学生・来賓の参加なしでの実施とした。</p> <p>・授業のみならず、文化祭、修学旅行、学年行事、部活動等の全ての教育活動で感染症対策に万全を期した。</p> <p>・毎日の健康観察のため、授業前に生徒朝礼(SHR)を導入。</p> <p>・保護者懇談は年間2回(7月・10月)、3年生進路説明会は7月、2年生修学旅行説明会は10月に実施。</p> <p>・PTA活動は大幅に縮小したが、PTA新聞は2回発行予定。</p> <p>(2)</p> <p>・校内での学校説明会は延べ7日、一日数回実施。人数制限を設け、ホームページで事前予約を受け付けた。</p> <p>・ホームページのトップページへの掲載更新は35回。(◎)</p> <p>・メールマガジンは、毎週金曜日の定期連絡を30回(1月15日現在)、長期休業中等の緊急連絡を42回発信。(◎)</p>